

研究所ニュース No.68

りべらしおん



「りべらしおん」は、フランス語で「解放」という意味です。

発行：公益社団法人 福岡県人権研究所

〒812-0046 福岡市博多区吉塚本町13-50 福岡県吉塚合同庁舎内 TEL 092-645-0388 FAX 092-645-0387

Mail: info@f-jinken.com URL: http://www.f-jinken.com/



「原口穎雄著作集出版記念祝賀会」での記念写真／前列中央は原口穎雄さんのご親族
(ホテルレガロ福岡)

『被差別部落の歴史と生活文化―九州部落史研究の先駆者・原口穎雄著作集成―』刊行

原口穎雄著作集出版記念祝賀会を開催

二〇一五年二月一四日(土) ホテルレガロ福岡

皆さまにおかれましては新年、新たな決意のもと、ご活躍のことと存じます。

昨年九月二八日(日)、四〇周年記念のつどい「ここへそしてここから」は、「全国水平社宣言・部落問題」を「ここへ(原点)」とし、「国際人権、多様性を尊重する社会」を「ここから(飛翔)」として行いました。これらを通して、(公社)福岡県人権研究所の基盤が築かれ、飛躍への萌芽、「温故創新」(伝統・先人に学び新たな道を創造する)が見えたように思います。

さらに、『被差別部落の歴史と生活文化―九州部落史研究の先駆者・原口穎雄著作集成―』も一年半にわたる編纂・校訂する過程で、改めて「ここへ(原点)」が九州部落史・解放史研究であり、「ここから(飛翔)」が研究所各部会活動や機関誌・受託研究であることを確信いたしました。

二月一四日(土)には、出版記念祝賀会を開催し、八〇名を越える方々にご参加をいただきました。関係者の皆様様に御礼申し上げますとともに、今後とも宜しく願っています。

(公益社団法人福岡県人権研究所

理事長 森山浩一)

原口頼雄著作集 出版記念祝賀会

二〇一五年二月一日(土)、一八時から「原口頼雄著作集出版記念祝賀会」が、ホテルレガロ福岡で行われた。(主催は同会実行委員会)会場には、原口頼雄さんのご親族はじめ、生前の原口さんを知る大学関係者、運動体関係者、友人、そして本著の発行に関わった出版関係者など総勢八二名が集った。(二頁写真参照)

最初に森山沾一理事長が、「著作集を通じて多くの方に被差別部落の歴史と生活文化に関心をもっていただきたい」と語った。発起人挨拶では、部落解放同盟中央本部の組坂繁之執行委員長、西日本新聞社の川崎隆生社長、熊本学園大学の花田昌宣教授の三名が代表して語り、発起人が紹介された。つづいて発行・販売に関わった明石書店の石井昭男会長が、本著に対する思いや経緯を述べた。原口邦子さんからお礼の言葉が述べられ、松本龍・元



スピーチを聞く参加者

環境大臣が挨拶と「献杯」の発声を行った。その後参加者は、懐かしい再会や新たな出会いの時間を楽しんだ。

懇談のあと、研究所役員と原口頼雄さんの九州大学在学中の恩師である秀村選三さん(九州大



中村久子さん

学名誉教授)が紹介された。「原口頼雄を語るリレートーク」では、最初に登壇した安藤龍生さん(田川市石炭歴史博物館館長)が、「この著作集を通して原口さんの思いをどう未来に受け継いでいくかを考えていきたい」と語り、つづいて西尾紀彦さん(ジャーナリスト)、中村久子さん(佐賀県部落解放研究所事務局長)、加藤昌彦さん(関西外国語大学特任教授)、奥田均さん(部落解放・人権研究所理事長)、園田久子さん(研究所理事)、首藤卓茂さん(研究所特命研究員)が、原口さんとの思



奥田均さん

い出を語った。スピーチで奥田さんは「生前の原口さんとお会いできなかったことが悔やまれるが、本著を通じて原口さんの思想や業績にふれられることに感謝したい。原口さんの批判や孤立をおそれない勇気は現在の我々に必要であろう」と述べた。最後に、原口頼雄さんの弟、原口孝博さん(堅粕人権のまちづくり館館長)が兄について、ご長男の原口耕作さんが父親としての原口頼雄さんを語ったあと、本記念祝賀会の峰司郎実行委員長がお礼の言葉を述べて約二時間の会は終了した。



原口耕作さん

第一八三回定例研究会&第二回ジェンダー部会 「遊郭街跡 新柳町(清川)の歴史と散策」 二〇一五年一月十八日(日)

二〇一五年一月十八日(日)、第一八三回定例研究会&ジェンダー部会を開催。福岡市立春吉公民館で行われた講演会と新柳町遊郭跡をフィールドワークに、四〇名を越える参加者が集った。講師は渡邊弘子さん。渡邊さんにとって、かつての遊郭街「新柳町」は通学路だったという。戦後の新柳町(のちの清川)の様子を渡邊さんご自身の体験を交えて語られた。講演後参加者は渡邊さんのガイドで新柳町遊郭街(清川)を散策した。

参加者の感想

○渡邊さんが子どもの頃、遊郭に連れて行かれる少女をずっと見て、それに気づいた少女が背筋をピツとのばしたというお話が心に残っています。

○本で読んだ話を聴くだけではなく、実際に現地を歩いてみると、このことはとても有意義だと思えます。今後とも同様



新柳町について語る渡邊弘子さん

のフィールドワークがあれば参加したいと思えます。○時代別の新柳町地図を作ってみたくなりました。

○福岡に住んで二十年ほどになりますが、清川のあたりが遊郭街だったとは知らず、とても興味深かったです。今日は跡地を見るだけでなく、当時の女性たちの生活についても少し知りたかったです。

○渡邊さんのお話が昔のお話なのにとっても記憶が鮮明で非常に良かったです。フィールドワークは自分で歩いて回ったことがなかったもので、とても勉強になりました。

○初めて遊郭街跡を知りました。建物の跡を知ってもそれまでの彼女らのつらさは想像もつかないものだと思います。知らないことを少しでも知るといことは、私にとって一歩かもしれません。

○都会の町も一歩裏道にはいるとこの町も昔を思わせるたたずまいがあるのを見て、なんだかほっとしました。でも、そこに生活の糧を求めてそこで暮らしてきた中にいろんな闘いがあったことに少し思いをはせることができました。

○話には聞いていましたが、これだけ大きな遊郭があったとは知りませんでした。またその中の女性の状況も詳しく話していただき、ありがとうございます。(詳細は『リベラシオン』第一五七号に掲載します)

第六回教育部会 「崩壊家庭」の子どもたちへの支援(里親活動について)」 二〇一五年一月十日(土)

一月十日の学習会は原田泉さん(部会員)による「知っていますか?里親制度の歴史と世界」の比較研究報告だった。

日本では、奈良時代の「悲田院」、十一世紀ごろには「里子村に預ける」との文言がみられること。現在の社会的養護制度(概要)は、①「家庭的養護」「施設養護」、②里親委託の概要「児童福祉法の規定」、③里親の種類には「養育里親・親族里親・短期里親・専門里親」があること。また、大阪で二〇一三年に開催された「家庭的養護の質を高め世界共通課題を論議する」IFCO(International Foster Care Organization)の報告が資料とともに示された。

日本においても「子どもの貧困対策の推進に関する法律」が策定され、内閣府から「子どもの貧困対策の推進」が出されている。解放運動においては、奨学金の問題がある。それらを原田さんの報告にあるような「崩壊家庭の子どもたちの支援」の視点から詳細に見ることによって子どもを巡る課題が「喫緊の人権課題」であることがわかる。大阪大会のイギリスの報告(「一斉学力検査では、里親委託の長い子の方が高成績。しかし、二流の市民という扱いもあった」)に対する提起もな

された。「崩壊家庭」「里親制度」について原田さんは、「進路保障」の課題とつなぐとともに、「それに対してあなた(自分)にできることは?」社会や政治のすべきことは?と問いかけるものであった。その後の協議も深まりのあるものとなった。

(教育部会長 峰司郎)

第五回啓発部会

「築城基地周辺の戦争の傷跡」

二〇一四年二月二〇日(土)

十二月二〇日(土)、第五回啓発部会が築上町人権センター(隣保館)で開催され、「築城基地周辺の戦争の傷跡」を巡るフィールドワークに啓発部会員九人が参加しました。

築城基地、掩体壕、安浦神社、弾痕が残るレンガ塀、地下通信司令部壕跡、旧鉄道の線路跡、弾薬庫跡を啓発部会長の加来康宣さんのガイドで巡りました。

戦争末期には、掩体壕や飛行機の誘導道路が空襲の目標になり住民に多くの被害がでたことを、今なお残る弾痕や弾痕跡が教えてくれました。特に、安浦神社から小道に入った民家の赤レンガの塀に残る空襲のすさまじさは、「確かに戦争はあったんだ」と語っていました。そして、今を生きている私たちがそのことを語り伝えていくことの大切さを痛感し

ました。

今回の啓発部会のもうひとつの目的は、長い間啓発部会長をしてくださった宮脇繁紀さんの慰労会と部会員の親睦会でした。



築城基地横に残る掩体壕の正面

「注文の多い客たち」を温かく、そしておいしい料理をおな一杯・こころ一杯御馳走してくださいました加来さんと連れ合いさんにごく感謝しています。同じ食卓を囲んで、みんなの気持ちをさらに近くに感じることができました。

(啓発部会 向井厚子)

第五回外国人部会

「外国人技能実習制度の現状と課題」

海外人権スタディツアー企画部会

「スリランカの暮らしと人権」

二〇一五年一月二四日(土)

外国人部会と海外人権スタディツアー報告会を福岡県人権啓発情報センターで合同開催した。

第一部は「外国人技能実習制度の現状と課題」と題した外国人部会の調査研究報告を部

会員が行った。

まず、稲月正さんの概要や課題を説明、山田澄子部会長からは、中国(南京)での調査報告、松本京子さんは、北九州における



報告する稲月正さん(中央)

技能実習生の実態、柳井美枝事務局長が「監理団体」について報告した。

報告を聞いた参加者は「外国人労働者に頼らざるをえない現状があるにもかかわらず、外国人の権利を保障していない実情や、未だ不正が行われている状況には憤りを感じる。外国人の人権が尊重される社会にするにはどうすればよいか。今後この問題に関心をもちつづけた」と語っていた。

第二部は、海外人権スタディツアー企画部会が、二〇一四年八月に訪問したスリランカの状況を報告した。最初に、松本京子部会長がスリランカの概要と本年一月に行われたスリランカ大統領選挙にふれ、松村さんからは、人権機関訪問時の様子などがスライドで紹介された。最後にツアー参加者が「観光では行けない人権団体との交流ができ、とても有意義だった」と感想を述べた。

三重県人権センターの紹介

人権資料・展示全国ネットワークの加盟団体から、今回は「三重県人権センター」を紹介いたします。

三重県人権センターの設置目的

三重県は、一九九〇(平成二)年三月の県議会において、あらゆる差別をなくしていくため、「人権県宣言」を決議し、人権の尊重を県行政における最優先の課題とする姿勢を打ち出しました。

この宣言の主旨に沿って、人権尊重の思想を広く県民に普及し、部落差別をはじめとするあらゆる差別をなくしていくための拠点施設として、「三重県人権センター」を設置しました。

三重県人権センターの業務

1 人権・同和問題等の啓発事業

同和問題をはじめとする人権に係る問題に対する正しい認識と理解を深めていただくため、人権講演会、研修会などを開催するとともに、さまざまな啓発活動を実施しています。

2 隣保館事業

地域社会の生活の社会的、経済的、文化的改善向上を図り、同和問題の速やかな解決に資するため、市町の隣保館事業に対して補助を行っています。

3 人権相談事業

人権問題で悩みをもつ方に、助言や専門機関の紹介などを行い、相談者の自主的な解決を支援する面接相談、電話相談を行っています。また、弁護士による法律相談(予約制)を実施しています。

4 差別事象への対応

県内で差別事象が発生した場合、市町や関係機関と連携し、情報の収集、事態の確認、課題の整理を行うとともに、当該市町を中心とした具体的な啓発・研修や体制づくりについて支援し、県としての啓発推進等の取組を進めています。

5 常設展示室の開設

子どもから大人まで、わかりやすく同和問題をはじめとした人権問題の資料などを展示しています。団体見学(予約制)の場合は、専門の職員が説明します。

6 図書室の運営

人権問題に関する書籍(一万二千冊)、映像教材(千百本)等を所蔵し、貸出を行っています。

7 多目的ホールの運営

定員三二二名のホールを有料で貸出を行っています。(駐車場は百台程度)

来館のご案内

所在地:三重県津市一身田大古曾六九三ー一
開館時間:火・日曜日
八時三〇分〜一七時一五分
休館日:月曜日、
年末年始(二月二九日〜一月三日)

(ただし、月曜日が休祝日の場合は、翌日が休館)交通:津駅より三重交通バスで「人権センター」下車すぐ。
JR 一身田駅より約一キロ

電話:〇五九一三三三ー五五〇一
FAX:〇五九一三三三ー五五一一
メール:jinkenc@pref.mie.jp
HP: http://www.pref.mie.lg.jp/JINKENC/HP/



三重県人権センターの外観



県民人権講座の様子(多目的ホール)

会員の声

○表現の自由と人権を考える

―パリのテロ事件と人質事件―

正月気分が抜けきらない一月七日、フランスから衝撃的なニュースが飛び込んできた。パリの風刺週刊新聞シャルリエブド本社での襲撃事件だ。ハリウッドの派手なアクション映画を思わせるような事件の展開に驚くとともに、さまざまなことを考えさせられた。

事件は、覆面をした男たちがシャルリエブド本社に押し入り、銃を乱射、会議中の編集長ら十二人を殺害した。その後の立てこもり事件を含め犠牲者は十七人に上った。

この事件の背後にあるものは何だったのか。容疑者三人は特殊部隊によって射殺されたため詳しい犯行動機は不明だが、新聞社を襲撃した二人はフランス国籍を持つアルジェリア系の兄弟だった。中東のイスラム過激派組織での活動経験があり、襲撃の際、「預言者のかたきだ」と叫んでいたことがわかった。

シャルリエブドはイスラム教の預言者ムハンマドの風刺画をたびたび掲載し、イスラム教徒の強い反発を招いていた。事件は、イスラム過激派が預言者を侮辱したとして編集長や風刺画家らの殺害に及んだとみられている。

たとえ風刺画が不愉快だったとしても、問答無用と関係者を殺害するとは……。全く理解で捕らえられ、身代金二億ドルを七十二時間以内に支払わなければ殺害すると予告するビデオ声明が一月二十日にインターネット上で公表された。その後、要求はヨルダンに収監中の死刑囚との交換に変更されたが、人質の二人が相次いで殺害されたとみられる映像が流れた。最悪の結末となった。

私たちにとって、パリのテロ事件はまだ遠い欧州での出来事という印象があったが、この人質事件によって日本はいや応なしにイスラム過激派との対立に巻き込まれてしまった。

百年前の第一次世界大戦後、英仏の列強が民族や宗教を無視して中東、アフリカに設けた国境の線引きが現在のイスラム教徒の反発の根源という説もある。対立の根は深い。

日本はそうした対立の歴史を持たないこともあって、これまでイスラム社会とは良好な関係を保ってきた。だが、人質事件の映像声明で「イスラム国」は今後も日本人を標的にすると予告し、これに対し日本政府はテロリストとの対決姿勢を鮮明にした。状況は大きく変わってきた。日本でも格差が進行する中、排外主義が拡大している。国連人種差別撤廃委員会から強く対応を求められている人種差別的ヘイトスピーチも事実上野放し状態だ。イスラム過激派と一般のイスラム教徒とは全く別だが、今回の事件を機に、イスラム教徒全体が暴力的で、中東は怖いという誤った見方が日本国内で広がるのが心配だ。

(福岡県人権研究所理事 原田博治)

きない。

この事件についてエジプトのイスラム教学者が「すべての宗教には超えてはならない一線がある。私たちはそれを尊重しなければならぬ」と預言者ムハンマドの風刺画を批判したうえで、「誰かがムハンマドの風刺画を描いたとしても、銃ではなくペンで応じなければならぬ」と語っていた。まさにそのとおりだ。

事件後、フランス各地でテロ事件の犠牲者追悼と表現の自由を訴えるデモ行進があった。実に三百七十万人もの人々が参加し、フランスでは史上最大規模のデモ行進だったといわれる。テロに屈せず、表現の自由を守ろうとするフランス国民の強い意思が感じられた。

いうまでもなく、民主主義の根幹をなす「表現の自由」は最大限尊重されなければならない。ただ、この「自由」はどんな場合でも無原則なのか、また風刺は誰を対象にすべきものなのか。こんな疑問も浮上してきた。

事件から一週間後、シャルリエブドは紙面の一面に再びムハンマドの風刺画を載せた。この風刺画は、事件後にシャルリエブドへの連帯を示す合言葉となった「私はシャルリ」のメッセージを持って涙を流すムハンマドの姿を描いていた。テロには屈しない、表現の自由は守るとの確固たる意思を示すのが狙いだった。

正直いって、この風刺画には違和感をおぼえた。イスラム教徒の一層の反発を招くのではないかと。当のフランスでも「表現の自由を断固支持する」との声の一方で、「イスラム教徒

尹東柱詩人没後七〇年記念追悼式 ・巡回展・講演会に参加して

私が学生時代に通っていた「福岡・尹東柱(ユン・ドンジュ)の詩を読む会」(馬場木美喜子代表)の主催で尹東柱詩人没後七〇年記念追悼式・遺稿巡回展・講演会が開催された。尹東柱は、戦時下にハンブルで詩を書き続け、日本留学中に独立運動の嫌疑で治安維持法により逮捕され、福岡刑務所で二七歳の若さで亡くなった詩人である。

一三年前、大学二年の夏に参加した「尹東柱の足跡をたずねる韓国交流の旅」で、ソウルを訪れた際にお会いした尹東柱の甥である尹仁石先生(成均館大学建築学科教授)が今回初来福された。尹東柱が書き送ったハンブル詩を終戦まで実家の床下の瓶に入れて守りぬいたのは親友の鄭炳昱(ジョン・ピョンウク)。鄭炳昱の妹が亡き親友・尹東柱の弟・尹一柱と結婚し、その間に生まれたのが尹仁石先生である。

一日目は百道西公園(旧福岡刑務所跡)での追悼式の後、二日目はご専門である建築史に関する講演が九大橋キャンパスで行われた。尹東柱の講演では、尹東柱の学生時代の写真や家族写真、友人たちとの交流などが紹介され、最後に七〇年後にシリアで無念の死を遂げた日本人二人に哀悼の意を表明された。二日目の建築

への挑発は控えるべきだった」と発言する人もいて、世論は二分された。表現の自由と宗教上の冒とくとの対立を調整することはかなり難しい問題だ。

「本来、風刺は政治家などの権力に対するものであるべきで、シャルリエブドの風刺は必ずしも権力に対するものばかりではない。過度の風刺は社会対立をおおるだけだ」と国内のある評論家が指摘していた。この言葉は私には説得力のあるコメントに聞こえた。

二〇〇一年九月の米国同時多発テロ以降、米国はもろろん、世界各国で反イスラム感情が高まっている。

中でも欧州諸国は、過去の植民地主義の歴史や移民政策により国内に多くのイスラム教徒を抱えている。近年の経済低迷の中で「反移民」「反多文化主義」を訴える極右勢力が急伸し、移民や宗教的マイノリティーへの攻撃を強めている。その露骨な差別、排外主義はかつてのナチスをほうふつとさせ、不気味だ。

パリのテロ事件後、欧州各地のイスラム教礼拝所(モスク)に相次いで銃弾が撃ち込まれた。これも欧州の反イスラム感情の高まりを反映したものとみられる。

一方、欧州のイスラム教徒に目を転じてみよう。移民の二世、三世は、貧困と差別など強い閉塞状態にあるという。一部の若者は過激思想に染まり、「ジハード(聖戦)」とテロに走る。解決の糸口が見つかからないため、事態は深刻だ。こうした中、「イスラム国」に日本人二人が

に関する講演では、近代建築の保存活用の視点から、植民地時代の日本の建築物が取り壊されつつある現状が報告された。

尹仁石先生も東大留学経験があり、一三年前お会いした時も日本語は堪能だったが、今回は通訳の方に気を遣って、日本語は控えられている。以前と同様、謝金も交流のための基金に寄付され、一三年前と変わらず謙虚でおくゆかしい紳士だった。「先生や、先生のお子さんは詩をかかれぬのですか？」と質問したところ、「伯父さんが有名になりすぎて……。恥ずかしくて書けない」と、はにかみながら答えられた。今回の尹東柱詩人没後七〇年記念では、多くの懐かしいメンバーに再会した。尹東柱の詩によって結ばれた韓日の交流の輪が今後も広がっていくことを期待したい。

今の時代も尹東柱の生きた時代のように、良心を持つ者にとっては生きづらい世の中だけれど、もう一度尹東柱を読み返して、この生きづらさをどう生き抜くか考えてみたいと思う。

(福岡県人権研究所事務局 田中美帆)



尹仁石先生(左)との再会

お知らせ

(福岡県人権研究所主催事業)

○「史実と授業・啓発の結合をめざして」
&「第二回人権啓発担当者のつどい(第一八四回定例研究会)」

▽内容「水平社宣言を世界記憶遺産に」

▽講師 駒井忠之さん(水平社博物館学芸員)

▽日時 二月二十七日(金)一八時三〇分

▽会場 北九州市男女共同参画センター(ムーブ) 五階大セミナー室

▽資料代 五〇〇円 北九州市小倉北区大手町十一-四

○公益社団法人福岡県人権研究所

二〇一五年度会員総会

▽日時 五月三十一日(日)

▽会場 福岡県人権啓発情報センター (駐車場が有料になりました)

▽記念講演テーマ 「水平社宣言を世界記憶遺産に」

▽講師 朝治武さん(大阪人権博物館館長)

★ ★ ★ パート二(仮)

○(三一文化祭実行委員会主催事業)

第二六回三・一文化祭

▽日時 三月二十九日(日)十時三〇分開場、十一時開演、十五時三〇分

▽会場 福岡市立千代小学校体育館

▽参加費 無料 (地下鉄千代田口から徒歩三分)

研/究/所/日/誌/か/ら (2014.12.20~2015.2.20)

12月

20(土) 第6回啓発部会(築上町フィールドワーク)

22(月) 事務局会

25(木) 第52回松本・井元研究会

27(土)~1/4(日) 閉局

1月

5(月) 事務局会

7(水) 消防地区隊会議

8(木) 部落解放同盟福岡県連合会旗開き(福岡市)

『原口穎雄著作集』出版記念祝賀会実行委員会

9(金) 消防訓練リハーサル

10(土) 第6回教育部会(原田泉『崩壊家庭』の子どもたちへの支援)(福岡市)

14(水) 消防訓練

16(金) 大牟田市「人権のまちづくり啓発リーダー養成講座」第2回

(加藤陽一「市民人権問題意識調査から見えてくること(20代を中心に)」

谷口研二「啓発ビデオで考えるー“確固たる人権意識”とは?)」

17(土) 九州地区部落解放史研究集会打合せ(熊本市)

18(日) 第183回定例研究会兼第3回ジェンダー部会(渡邊弘子「遊郭街跡新柳町(清川)の歴史と散策」)(福岡市)

19(月) 事務局会

23(金) 第53回松本・井元研究会

24(土) 第4回外国人部会「外国人技能実習制度の現状と課題」

&海外人権スタディーツアー報告会「スリランカの人と暮らし」(春日市)

26(月) 事務局会 第3回部会長・運営委員合同会

29(木) 『原口穎雄著作集』出版記念祝賀会実行委員会

2月

2(月) 事務局会

3(火) 大牟田市「人権のまちづくり啓発リーダー養成講座」第3回

(大谷るみ子「まちでみんなで認知症の人をつつむー共感と協働のまちづくり」、

交流と振り返り)

9(月) 事務局会

10(火) 編集委員会

12(木) 『原口穎雄著作集』出版記念祝賀会実行委員会

14(土) 『原口穎雄著作集』出版記念祝賀会(ホテルレガロ福岡)

15(日) 第5回執行理事会

19(木) 第54回松本・井元研究会

(※住民意識調査等の受託事業に関する調整・事務、研究・研修や教育・啓発に関する相談業務や研修会等の企画、講師依頼への対応等については省略しています。)